

四日市市新図書館 ワークショップ

第 5 回

2023 年 10 月 28 日（土）14:00～15:30

四日市市立図書館 視聴覚ホール

本日の進行

- 14:00～ 開会のご挨拶
- 今回のワークショップの趣旨・進行の説明
- 各テーブル自己紹介
-
- 14:10～ 事業経過等の説明（配布資料の説明）
-
- 14:20～ ワークの開始
- ・注意事項の説明
 - ・ソロワーク
 - ・グループワーク（意見交換 ⇒ 発表計画）
-
- 15:05～ 各班からの発表
-
- 15:25～ クロージング

これまでの検討経過

H17 市民に求められる四日市市立図書館像について(提言)

H20 新しい図書館のあり方検討会報告書

四日市市総合計画(2011～2020年度) >>> 市民ニーズに合わせた図書館づくり

H26 第2次推進計画(平成26～28年度) >>> 「新図書館整備構想策定事業」

H27 中心市街地活性化推進方策検討会議 (平成27年11月～平成28年3月 計5回開催)

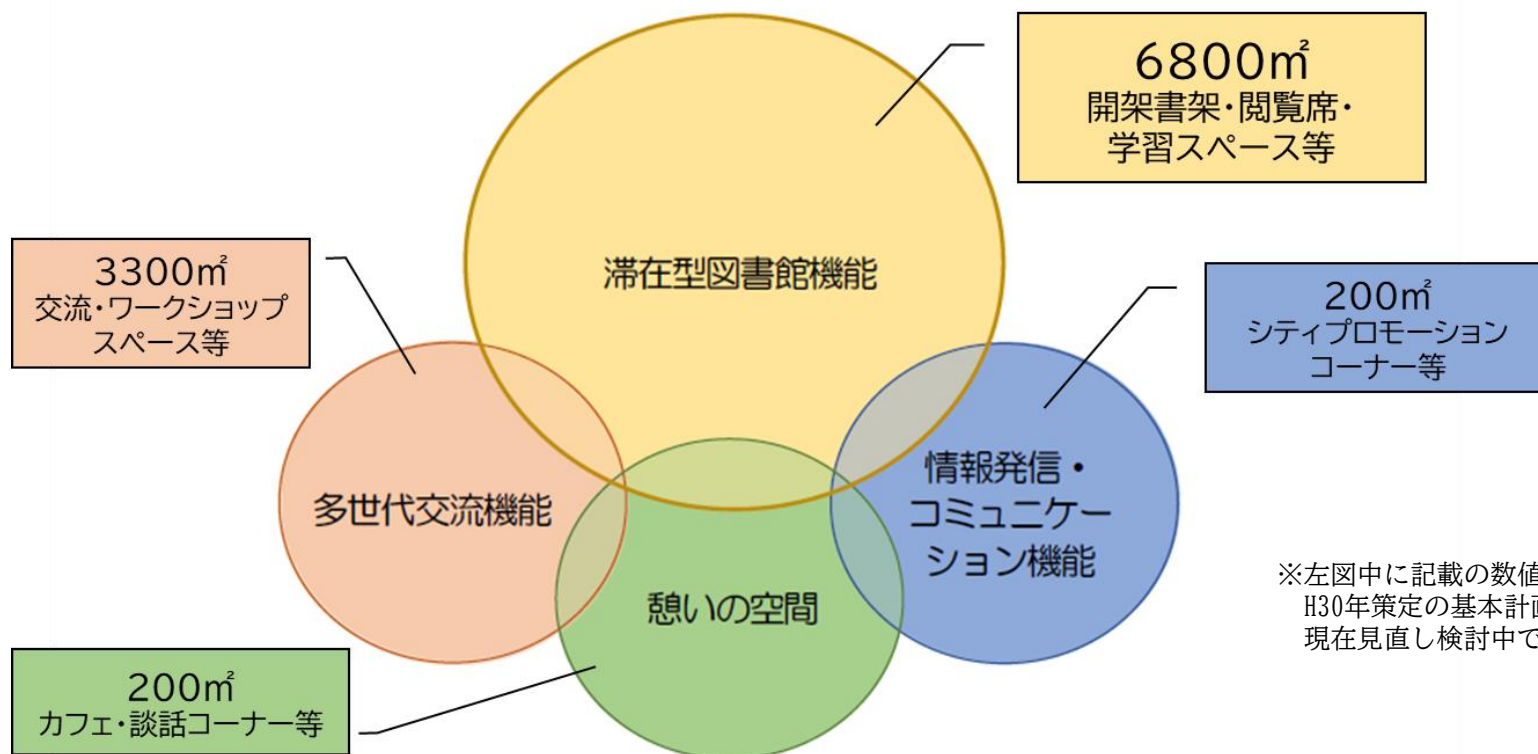
H28 四日市市中心市街地活性化推進方策調査検討会議より市長へ報告書を提出

H30 中心市街地拠点施設整備基本計画策定

R02 中心市街地拠点施設整備基本計画(可能性調査検討)検討
近鉄グループとの協議を開始

中心市街地拠点施設整備基本計画における4つの設定

- ICTにも対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした滞在型図書館機能
- 様々なライフスタイルに対応したワークショップスペースなど多世代交流機能
- 情報発信・コミュニケーション機能
- 幅広い市民が気軽に立ち寄れる憩いの空間



※左図中に記載の数値はいずれもH30年策定の基本計画におけるもので、現在見直し検討中です。

昨年度～本年度の取組み

○新図書館等に係る近鉄グループとの覚書の締結（R05.03）

【新図書館等に係る建物計画】

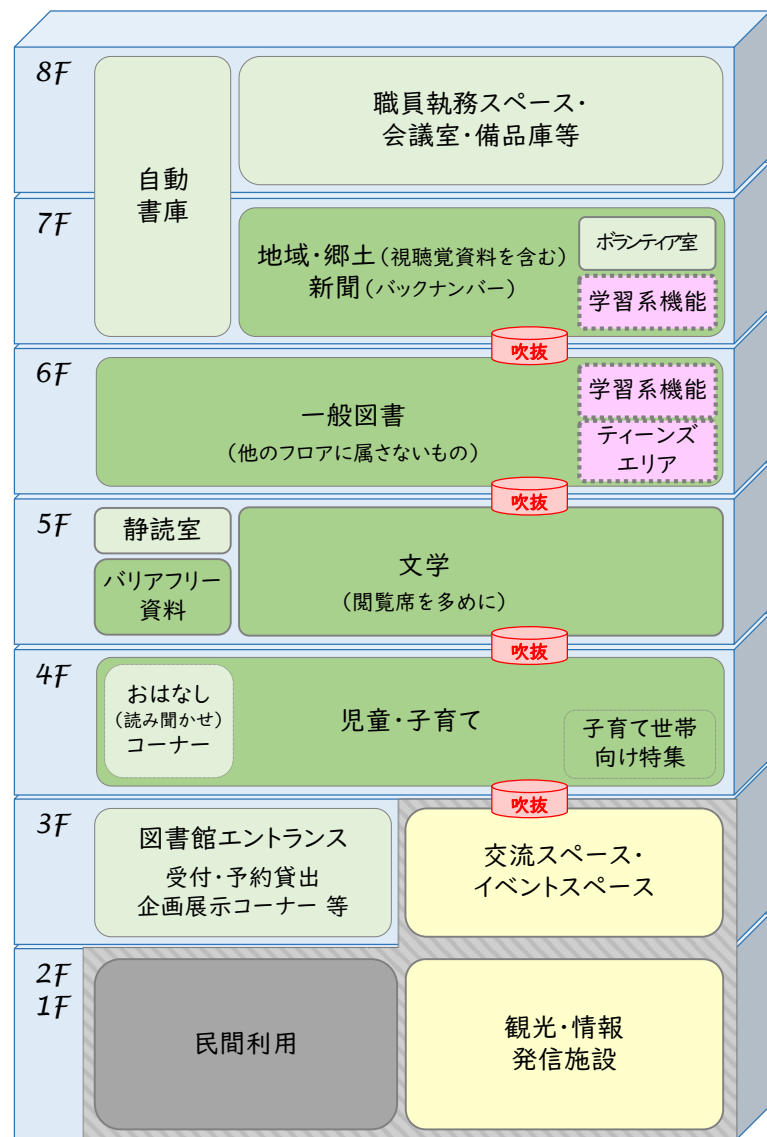
新図書館等占有延床面積	約12,200㎡	
うち、図書館	約 9,900㎡	※図書館及び交流施設は3～8階
うち、交流施設	約 1,600㎡	
うち、観光機能施設	約 700㎡	※観光機能施設は1・2階

○市民ワークショップの開催＜全6回予定＞

第1回	7/17(月)	
第2回	8/10(木)	高校生対象
第3回	9/12(火)	子育て中の方優先
第4・5回	10/28(土)	
第6回	11/23(木・祝)	

○R5年度中に、新図書館基本構想および基本設計をとりまとめ予定

フロア構成 中間検討案



フロア構成の基本的な考え方

- 基本的には下から上に向かって、動(賑やか)→静(穏やか)になっていく流れだが、全体として静けさを基本とするのではなく、会話を許容する図書館とする。静寂へのニーズには、そのための個室を設けることで対応する。
- 市民ワークショップの結果も踏まえ、児童・子育て関係とバリアフリー資料は下層階に、調べ物対応の機能は上層階に置き、中間に読み物がくる構成とする。
(各フロアに配架する図書の分類は、左図の濃い緑の枠内に記載のとおり)
- 4F(児童・子育てのフロア)には、子ども向けの本だけでなく、子育て中の大人に適した図書を集配架するコーナーなど、大人も過ごしやすくなるための工夫を検討する。また、「子ども用トイレ」や授乳室の設置など、子連れ利用に配慮したつくりとする。
- 5F(読み物のフロア)には、思い思いに読書を楽しめる閲覧席を用意するほか、防音機能により静寂を確保した「静読室」を設ける。
- 10代の若者たちの居場所となる「ティーンズエリア(仮)」を5F(または6F)に配置し、中高生向けの特集書架やフリースペースを設ける。
- 6F・7Fには、グループ学習室や、カウンタータイプの個人学習席、キーボードの利用も禁止して静けさを保つ学習室など、種類の異なる学習環境を確保する。
- 各階の上下移動には、館内専用のエレベーター、エスカレーター、階段を確保する。各階に受付カウンターを設置して利用者対応を行うほか、そのフロアに配架する本と関連するミニ展示を行うコーナーを設ける。
- 館内に開放感をもたらし、上下階のつながりを生む「吹抜け」を作る方向で検討する。ただし、全体を同じように貫くのではなく、上下で濃淡(広い・狭い)をつける選択肢も含め、各フロアの利用想定も踏まえながら最終的なあり方を検討する。
- 飲食ができるスペースがほしいとの要望もワークショップで数多くあげられたことから、施設全体で2か所(2フロア)程度、飲食可能なフリースペースを設ける。
- 館内全体で、Wi-Fi環境の整備や、電源コンセントの配備など、PC・タブレット利用に配慮した設備を用意して、利用者の滞在快適性を高める。

空間デザインの方向性検討（１）

【新図書館の特徴】

- 全体で6フロアにまたがる多層構造になる予定。
- 日常の居場所となる全世代を対象とした「滞在型図書館」を目指す。

【空間デザイン検討の視点】

- 多層にわたる図書館であることを踏まえつつ、多様な市民の日常的居場所空間となることを考えると、大きく2つの方向性が選択肢として考えられる。
 - (A) 施設全体の調和を重視し、全体を共通のデザインとし、上下階の連続性を演出する工夫をする。
 - (B) 施設全体の調和よりも、多様な居場所空間を設けることを重視し、フロアごとに異なるデザインをする。
- 価値観の異なる多様な市民の誰にとっても日常の居場所を提供するという観点に立てば、個人の趣向やその日の気分に応じてお気に入りの場所を見つけ、思い思いに過ごすことができるよう、基本的には(B)の方向性で検討することが望ましいのではないか？

空間デザインの方向性検討（２）

【各フロアのイメージ検討案】

7階 郷土資料(+学習系機能)のフロア >>> 『四日市ラウンジ』（人工的×歴史的）

- ☐ 時間(過去)が「価値」を伴って積み重なってきている雰囲気表現。
- ☐ 四日市の風土や歴史にちなんだ素材や装飾を採り入れる。
ex) アンティークカラーの木材(濃茶色)・金属(黒鉄・真鍮)、レンガや石など

6階 一般図書(+学習系機能)のフロア >>> 『知の探究・創造ラボ』（人工的×現代的）

- ☐ 知の蓄積を読み解いて新たな知を切り開いていく(明日につながっていく)イメージ。
- ☐ 白基調または透明感のある配色や、表面がなめらかな素材等、シャープな雰囲気を演出。

5階 文学のフロア >>> 『読みものの森』（自然志向×落ち着き）

- ☐ 書架の森を散策して、本と出会い、物語の中に入り込んでいく場。
- ☐ 木製品とファブリックなど、ぬくもりと柔らかみのある素材感で構成。

4階 児童と子育てのフロア >>> 『未来への広場』（自然志向×にぎわい）

- ☐ 明るくてカラフルな空間。
＊「カラフル」の度合い・風合い(マットorパステルなど)は要検討

学習スペースにおける検討事項

【現時点で想定している機能・要素】

<学習席> カウンター席、テーブル席

<学習室> 会話禁止、キータッチ音禁止の静寂な部屋

<グループ学習室> 複数人で会話をしながら学習できるスペース

【しつらえの検討が必要な要素】

○カウンター席、テーブル席の仕切り

隣や向かいとの仕切りがほしいとの意見あり ⇔ 仕切り過ぎると閉塞感が高まってしまうが良いか？

○外から様子が見える部屋の見え方の度合い

外から様子が見えた方がよいという意見もあるが、全面クリアに見えた方がよいか。

○グループ学習室の細分化の是非

(A)6～8人程度の部屋を複数室もうける (B)大人数が入れる部屋をフレキシブルに使用

ワークショップのお約束



恥ずかしがらない、悩まない
気軽に書いてみる、出してみる



否定しない！
いろんな意見が聞ける場を、みんなでつくりましょう



ふせん1枚に一意見
なるべく短く、なるべく多く



へえ！それ、いいね！真似してOK！
便乗して発想を広げる



他の人の意見を聴く、褒める

ワークで検討していただきたいこと

主に、以下の内容について、意見交換をお願いします。

○学習スペースのあり方 <ピンク>

- ・どのような環境、雰囲気、設備、家具、ルールが望ましいか 等
(写真素材を切り貼りして表現していただいても結構です)

○ティーンズコーナーに望むもの <きいろ>

- ・どのような機能、本、雰囲気、設備、家具、ルールが望ましいか 等
(写真素材を切り貼りして表現していただいても結構です)

○フロアデザインの方向性その他の要望 <みずいろ>